

目黒労協 2019秋季年末闘争ニュース

No. 20-01 2019年12月1日

発行:目黒地区労働組合協議会/教宣部

【HP】<http://home.g01.itscom.net/union/>

メール union@r05.itscom.net

加盟組合みんなの後継者対策を!

第68回定期大会、昨年を上回る参加で開催

11月9日(土)、東京土建目黒会館にて、目黒労協の第68回定期大会が開催され、活動報告、向こう一年間の活動方針、そして役員体制が満場一致で承認されました。来賓として、東京地評、大田区区労協、品川労協、目黒区労連、国民救援会目黒支部、目黒医療生協、共産党目黒区議団、渋谷共同法律事務所、労働情報センター大崎事務所からご挨拶をいただきました。また、JAL 争議原告団の闘争報告と、航空連より KLM 葬儀への支援要請がありました。代議員は20名と傍聴組合員2名、そして執行委員・大会運営委員、来賓の方全員で44名の参加でした。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



明るく元気な目黒労協定期大会

やっぱり若い労組の大東通信機労組とパスコ労組に注目してしまう。我が目黒地域支部は労協の定期大会を通過すれば1歳年を重ねるだけで、いわゆる企業のように組織の人身に循環がないから、労組の魅力が薄れていくだけに映る。

大東通信機労組とパスコ労組も他の労組も長時間労働からくる労働環境の劣化に悩んでいる。しかし若い大東通信機労組は労協主催の「BBQ」や「サマーミーティング」などの催しに積極的に参加している。

このことは労協の執行部はもとより出席した他の労組にも大きな刺激を与える。労協の定期大会はそんな刺激を得られる貴重な場である。新たな触れあいから新たな交流へ。今年も1歳年を重ねてしまったが、新たな刺激を味合わせてくる期待を抱いてしまった。(JMITU 目黒地域支部/委員長)



これからの労組の“在り方”を考え活動を

先日の目黒労協定期大会を迎えたことで、私は執行委員会に所属して1年が経つこととなります。幸いにも私の所属する大東通信機では、重い争議行動が必要ないため、目黒労協での争議関連の協力活動は、頭では必要なことと理解していても、私の心の中には少なからず拒否感が存在していました。しかし、そんな心境でも…そんな心境だからこそできる、目黒労協への貢献の仕方を考え続

けていた1年間だったと、定期大会を機に改めて思いました。

今後とも、目黒労協や、関連する労働組合への貢献の仕方を考え続け、“これまでの労組を作り上げた世代”と、“これからの労組を作り上げる世代”の橋渡し、そして“これからの労組の在り方を考える”取り組みをしていきたいと思えます。(大東通信機労組/労協執行委員)



信任された新役員・退任役員の紹介

目黒地域に根ざした活動・助け合いを

2006年、教育基本法が改悪された時、私も国会前の集会に何回も行きました。自治体の産別で改悪に反対したのは、自治労連だけです。「二度と赤紙を配らない」と決意した自治体労働者の組合に、改悪に反対した産別がなかったとしたら、歴史的に恥ずかしいことです。このとき、目黒でも労協が主催して改悪反対の学習会がGTで開催されました。縦にも横にも連携した取り組みがよりスムーズにできれば、大きな力になると思えます。

そして、地域に根ざした争議支援や助け合いも、労協の本領発揮といったところだと思います。共に頑張りましょう。(目黒区職労/労協副議長)

***大会発言は、『大会特集版』にてご紹介しています。**

JAL争議 今年中に解決する!

目黒駅前で地域共同宣伝を実施

11月15日夕方、JR目黒駅前で「JAL解雇争議を解決させる宣伝行動」が行われました。宣伝行動には、JAL解雇争議原告や目黒地域の労働団体など21名が参加し、JAL解雇争議の早期解決を訴えました。

連帯挨拶した各代表らは、JAL解雇争議の真の目的が労働組合の弱体化にあること、日本航空が国際労働機関（ILO）から4回も勧告を受けていること、そして昨年5月から始まった



た労使による特別協議が12回もおこなわれたにも関わらず、JALからは何ら解決の提案がされて無いたことが報告され、「JALは2020東京オリパラのオフィシャルパートナーになっているのであれば、ILOの中核条約を遵守する立場にある。今年の大晦日は解雇から10回目の大晦日になるが、10年目は迎えさせない」など力強い訴えがされました。

信号待ちで間近で訴えを聞いていた人、宣伝ビラを受け取った通行人からは、「JALの実態

がすごくよくわかった。納得できた」、「なんで解雇されたの」と質問してきた方に、「年齢が高いので今後の貢献度が低いと言われ58才で解雇された」と説明すると、「私は87才だけどまだ働いている。58才で首を切るなんて酷い」と、支援を約束してくれた方もいました。「JALは165名の解雇を撤回して」の横断幕は、行き交う人々の関心をよび、ビラを受け取りに来る方もいました。

宣伝行動では、目黒地区労働組合：千葉議長、JMITU目黒地域支部：福田執行委員、国民救援会目黒支部：安井事務局長、目黒区職員労働組合：橋本副委員長、航空連：諏訪副委員長、JAL不当解雇撤回争議団パイロット原告：山口団長が訴えました。

(JAL不当解雇撤回争議団・客乗原告団：事務局長)

団交でも会社回答なし、さらなる支援の強化を

年末闘争で予定されていた団交は終了しましたが、JALからは解雇問題に関して何の回答もなかったとのこと。年内解決をめざして『12・9JAL本社大包围行動』が予定され、さらに来年2月には南部地域での統一宣伝行動も予定されています。目黒からも全力で支援を強化しましょう。提起された行動に参加しましょう。



目黒駅前でする労協議長